



平成 14 年度の論文集

をどうしてやりたいのかということについて相談して、課題の絞り込みをします。課題が決まったら、論文構成（大きな枠組みで何をするか）を考える。これが一学期の二度目の提出です。

次に、生徒の作った論文構成を土台として、生徒が選んだテーマの骨を教員と生徒の間で確認していきます。その骨をもとに、内容に踏み込んだ個別面接を一学期にして、夏休みに下書きを書いて二学期のはじめに提出、そして、最終的には三学期に提出、というのがおおまかな流れです。

教員たちにも、生徒の視座を尊重しながら、わかり

やすいかどうか、テーマをどう深めるかなどの相談にのりながら、事実をおさえて結論をきちんと書く、というスタンスの論文指導の土台ができてきました。図書館はこの当初から連携していました。先生方は、朝の電車の中で生徒たちの下書きを読むなど、少ない時間を有効に使って努力していました。指導者にとつてもなかなか厳しいことですが、これで私たちもずいぶん力をつけさせていただきました。

生徒が選んだテーマを支える

編集部K：できあがった論文集を拝見させていただくと、生徒さんの選んだテーマ、問題意識はほんとうに多様ですね。社会的に大事なテーマもたくさん生徒さんが扱っています。

編集部N：生徒さんが自分でテーマや参考文献を判断して決定するためには、読む力、考える力が必要ですね。

福原先生：読む力も考える力も、本当に人それぞれです。テーマや参考文献を見つけるのに行き詰まってしまうこともあるので、その場合は居残りでマンツーマンで指導しています。

編集部N：参考文献を読まないで、聞き書きだけの人はい

ないですか

福原先生：聞き書きだけではなくて、聴いたことの裏付けをしたり、背景を補うために、例えば郷土資料館などで資料を探してくるように、などの指導はしています。

編集部K：何も関心がない、書きたくないという人はいませんか。

福原先生：それはいいです。何かあります。もし見つけにくくても、教員が指導していく中で、その人の中にある問題意識を、その人自身が形にしていって支援をします。すると、生徒も必ず応えてくれます。

編集部N：先生との信頼関係があるのでしょうかね。

福原先生：ギリギリの枚数であっても、生徒は必ず書いてきます。少なくとも三千字、四千字。資料は字数外です。論文ができてくるのは三学期始業式の日です。そして授業の場で発表します。

編集部N：最終的には授業の場で共有するんですね。生徒さん自身が一年間かけて色んな方に相談しながら、作品を創っていく中で、生徒さん自身が変わってきたというような面はありますか。

福原先生：生徒の自己評価表を作りますが、一生懸命取り組めてよかった、計画が大切なことがわかった、自分のテーマについてもっと調べたいと思った、などの振り返

りがあるようです。

編集部N：生徒さん同士の相互評価はしないのですか。
福原先生：プレゼンテーションを聴き合います。

編集部N：論文を書いていくときにグループを作っているようですが、そのグループはどのように機能していますか？

福原先生：グループでは、自分はこのことをしています、というような報告をし合ったり、取材して書いていくというプロセスをサポートしあうのです。

編集部N：先生方が指導なさるときに、生徒さん一緒にあって、論文のテーマ探しを指導していらっしゃる。自分がどうしたいのかということを引き出して表現して、それを社会とつなげるということは、とてもエネルギーのいることで、最初はひとりではできないと思います。だけれか伴走してくれる人がいないと、社会のどこに手をかけていいかわからないと思うんです。その困難なプロセスを歩くひとりひとりの生徒に先生方が伴走してくれるというのは得難いことですね。とても貴重です。

福原先生：教員にとっても得難い経験ですよ。

編集部N：先生方も生徒さんと共有するものがあるという意味ですね。どんなものですか。

福原先生：自分で課題を見つけ、自分で考え、解決してい

く力。それを身につけてほしいという思いです。そのために、まず自分が何を知りたいのか、なぜ知りたいのか、知りたいことにどうアプローチしたらいいのか、壁にぶつかったらどうしたらいいのかと考え、壁を乗り越える方法を自分の力で見つけてほしいと思います。それは勉強だけではなく、クラブ活動や委員会でも同じです。考えて相談して、教員と話合ってやっていく。将来大人になって何か問題にぶつかったときでも、「ああ、あんなやり方もあったな」と、思い出して、切り抜けていってほしいです。

人に伝える、発表するときの基本的な枠組みをおさえる。そうすれば必ず伝わっていきます。原稿用紙の使い方、記号の使い方、プレゼンテーションの方法。自分で考えて行動するという原点を身につけてもらえたら、と思っています。

編集部N：自分で課題を見つければいいところをしっかりとやっていって、読ませるものを書くことができますね。大学のレポートでも、自分の中にないテーマ、与えられたテーマで書くと、何かの切り貼りになってしまいうことがあつた。生徒さんが書かれたものは、自分がなぜそのテーマにたどり着いたのか、というところを骨にして書いているので、読みやすいし、論文の最後まで読むと、その生徒さ

んの到達点、そしてこれからその人がどこに行くのか、ということが見えてきます。

福原先生：最初はそこまで行かなかつたんですよ。論文の骨を見つければいいところを精一杯。次は、論文の形式を考えた。

編集部N：この人たちが卒業してから、このときの論文テーマが、進路に結びつくということはありませんか？

福原先生：ホスピスのことをやった人は、医療への関心を深めて医学部に進みました。そういう意味では、社会科学の枠だけではだめなんです。理科も国語も体育も芸術も、科目の枠を超えて関わらないと。社会科学の枠だけだと「ワグナーの歴史」ということになってしまうけれど、音楽の先生ならば、もつと別のアプローチもできる。理科ならば、科学的な発想も必要だし。そういう拡がりがないと、今できているんじゃないかな、と思います。

編集部K：ひとつの問題にも、その人なりの切り口がありますよね。環境問題なら、社会的な切り口も自然科学的な切り口もありますね。

福原先生：教員も鍛えられますよ。自分の専門分野だけではだめなんです。

福原先生：自分の学年以外の生徒とも一年かけてつきあうことになるわけだから、勉強になりますよ。

編集部N：総合的な学習の時間で、中・高の専任の先生全員で、生徒さんのさまざまなテーマに対応していくというのは、すごいですね。

編集部K：「フランス革命」「練馬区の結婚」「尊厳死について」「人種差別について」など、本当に様々なテーマですね。

福原先生：岩手の無医村の取材をしてきた論文も面白かったです。先祖や家族がテーマになったときも、単なる自伝ではなくて、その時代とすりあわせて、その時代の中で先祖がどういうことをしたか、ということを書いてきています。

生徒自身の力を尊重する

編集部N：校正などはどうしていますか？

福原先生：文章で意味がつかっていないところなどは、教員がチェックしていますが、あとは生徒の力です。

編集部N：生徒さんの力でここまでくるんですね。語彙もあるし、文章力もある。書いていく中でつけるんですね。福原先生：生徒がテーマを出してきたときに、これからどうやって参考文献を選んでくるだろう、この人は、どこから入っていくのかなあ、と楽しみです。押しつけては

いけないから、こういう本もあるよね、こつちも調べてみたら、というアドバイスをすることはあるけれど、生徒自身で試行錯誤する力が大切です。生徒がそこにぶつかったとき、この生徒はどうするだろう、と楽しみでした。

図書館の関わり

編集部N：図書館の関わり方についてもお話をうかがわせてください。

徳田先生：小論文に必要な条件や、図書館での参考文献の探し方、小論文に役立つ本についてなど、全体にわたって指示できるようなことをプリントにして配付しました。生徒たちがふだん触れたことのないもの、つまり年鑑・白書というものはどういふものかなどについても解説しました。そのほか、図書館に新書を揃えたり、参考文献の選び方に生徒が悩んでいるときは、手伝ったりします。生徒のテーマが明確になってきたところで、この本ならば、来年でも使えるだろう、と判断して購入します。生徒たちは地域の公共図書館も利用しますね。どこに何が あるか、ということについては、こちらも情報を与えますが、あとは個別に論文指導の担当の教員が指導します。

関わること、待つこと

編集部K：やる気のない人はどうしますか？

福原先生：受け身でやっている生徒は、遅れるんですね。すると、友達が応援するんです。書き終わった人が、「あなた、書かなきゃだめじゃない」と。一緒に居残りをしなくてはならない。生徒たちはとても強いつながりを持っていますよ。遅い人の調べものを手伝いながら、残って一緒にやっている。非常に優しいですね。サポートし合っているんですよ。論文を書き上げる時期は、教員も生徒たちとずいぶん一緒にいます。朝相談にのって、また昼休み、そして放課後と。それをやっているうちに、教員と生徒との関係もできてくる。面白いですよ。このときに関わった生徒を高三でまた受け持つて、あのとき大変だったね、と語り合うこともある。書けない生徒がいても、切り捨てないで、先生も友人たちも関わっていくんです。

編集部N：友人や先生が自分を切り捨てないで向き合ってくれた、という経験は、生徒たちにとって、生きていく勇氣、自信になりますね。生きていくのには、人に相談する力も必要ですね。先生たちが、相談していいよ、と腕を拡げてくれているんですね。指導者としての今後の

課題はありますか？

徳田先生：私は昨年関わったばかりだから、課題としてはこれから明確になってくるのだと思っています。まだ本当にに私自身試行錯誤なんですよ。

編集部N：徳田先生がうれしかったことは？

徳田先生：年末に、まだ書けないと言って図書館に来た生徒と残って一緒にやっているうちに、「わかった、こう書けばいいんだ」と、生徒自身が自分でわかっていくとき、お互いに共通の喜びをわかちあえます。

編集部N：もう共同作業ですね。教員も関わって一緒にやっているんですね。

福原先生：社会科の教員が、あとがきで書いていますが、一二年間やっているうちに、論文の質の問題を考えるようになってきました。教員も論文のテーマや内容に入っていて、生徒が教員と議論しながら創っていければいい、と。それからプレゼンテーションをみんなできるようにしたいですね。

編集部N：議論は、教員とだけでなく、生徒さん同士でもできたらいいですね。

福原先生：そうですね。今後の課題です。

編集部K：本日は、本当にありがとうございました。

平成 14 年度課題研究テーマの例

今年度は約 96 編の小論文が提出されましたが、ここにはその一部のテーマ（論題）を掲載しました。

-
- | | |
|----------------------|-------------------|
| テニススピリッツ | 数の歴史 |
| 死刑の結論 | 日本の衣服 |
| 死刑制度について | クローン |
| 日本とアメリカの文化の違いについて | マザー・グース |
| 少年法と少年犯罪 | 音楽の効果 |
| スイスと永世中立国 | ケルト神話 |
| パレスチナ問題について | 学校について |
| 四大文明について | 東京ディズニーリゾートを探る |
| 世界が抱える森林問題 | インカ文明について |
| 伝統的な宗教と社会との関わり | 知られざる韓国・北朝鮮と日本の関係 |
| 日本のODAをどのように改めていくべきか | 土壌・地下水汚染の現状とその対策法 |
| いやし系ブームの落とし穴について | タイタニック号沈没事故について |
| 宗教における日本人と欧米人の違い | インターネットの光と影 |
| 動物愛護法 | サンタクロースについて |
| 成田空港問題について | 妖怪研究 |
| 人はなぜ絵を書くのか | 茶道について |
| 人はどうして絵に惹かれるのか | 近代以前のユダヤ教徒 |
| 犬の起源とその進化 | 心の病気について |
| 「ジキル博士とハイド氏」について | スタジオジブリとその魅力 |
| 町工場について | 睡眠について |
| エイズについて | クローン技術について |
| 介護保険について | エイズについて |
| 介護保険制度と介護保険施設 | 現代における片仮名の使用について |
| 東京ディズニーランドについて | 日本は首相公選制にすべきか |
| 浅間山荘事件について | 現代の子供たち |
| 現代の子どものポジション | 漢方について |
| ～戦後から現代へ～ | バリアフリーについて |
| アメリカのスポーツ | 死刑制度の是非 |
| 高齢化について | 音楽活動の条件 |
| 富士山の歴史～世界遺産になるためには～ | 虐待 |
| 若者の就職に対する姿勢 | プラセボ効果について |
| マスコミについて | 世界の食べ物 |
| クローンについて | アロエについて |
| プロ野球の将来 | 各国の携帯電話事情 |
| ～メジャーリーグ流出の危機～ | 音楽療法とリトミック |
| 衣服の起源 | 本当の豊かさとは |
| ディズニーアニメーションの魅力について | IT革命と豊かな暮らし |
| アルツハイマーについて | ペットについて |
| 国際ボランティアについて | 高校の校則について |
| 高齢化社会福祉について | アイルランドについて |
| 現代の食生活 | 砂糖について |
| イスラエルとパレスチナ問題 | 音楽が人間に与える影響 |
| 私達の歯と虫歯の発生 | 音楽の人間に与える影響 |

日本の食文化の国際化
人間とストレス
恐竜の絶滅について
ミャンマーの政治問題について
睡眠について
望月の本陣について
平安貴族の日常と文化
犬と人間の関係
微生物による生ゴミ堆肥化について
クローニングの応用とその危険性
死刑廃止
海洋汚染について
人間と生きる犬について
コンビニについて
児童虐待について
異常気象
超高齢社会と高齢者福祉
鳥
森林破壊
宝塚歌劇について
睡眠についての知識と再確認
フランス革：命について
盲導犬とパートナー
日本の戦争犯罪と戦後責任のとり方
冤罪
明治の洋館
オゾン層の破壊について
日本の税金
アポロ 11 号は本当に月へ行ったのか
英語の歴史
都市動物と人との関わりについて
児童心理
血液型と性格の関係
地下鉄サリン事件について…
犬と人間の共存
海外から見た日本人について
映像技術の進化
日本の食文化の歴史について
ロボットと人間の共生
盲導犬について
延命治療について
報道の落とし穴
ユダヤ人の歴史
一つの視点から考えて
ゆとり教育について
川越の街並みについて
アメリカと日本の暮らし方の違い
交通広告の現状と課題
自閉症について
日本とドイツの教育システムの違い

飛行機について
思春期
一ノ瀬泰造の生涯
太宰治とその狂気
グリム童話の謎
人間の寿命
自立
カルシウムの必要性
少年法について
神隠しについて
犬と人間の関係について
高齢化社会と少子化
日本人とアメリカ人の違い
～相互理解のために～
ユダヤ人虐殺について
一何故止められなかったのか
政治家について
日韓関係の現在と将来
超常現象について
発声方法について
動物と人間の関係について
薬物乱用
これからの子どもたちの食生活
ゴシック建築について
子供のストレスの現状と対処法
アダルトチルドレンについて
紙のリサイクル
ダイエットについて
ファッション変遷史
未成年
日韓の友好関係
人間と音楽
マザーグースについて
インターネット
なぜ米語はここまで発展したか
リストカット
アメリカ人と日本人の国民性の違い
芸術スポーツと選手達
どうして第 2 次世界大戦は
防げなかったのか
家庭内虐待
アメリカ同時多発テロ～アメリカとイスラ
ムの歴史的な対立～
バリアフリーについて
尾崎豊
エジプトと宗教
言葉の変化について
薬の影響の大きさについて
アメリカの生活と日本の生活の違い